



炭酸ガス注入充填と通常充填が使い分けられる微炭酸ガス充填機を導入

事業の背景・目的

近年、日本酒市場を取り巻く環境は厳しく、酒蔵の数は減少の一途をたどっている。当社においても約10年前までは地元だけを市場にしており、売上は減少傾向にあった。そこで販路拡大のために、アメリカに飛び込み営業を行ったり、国内では地元から東京市場へとシフトし、製造面でも改良を重ねてきた結果、品質が評価され売上増加につながっている。また、東京の主要取引先の酒問屋から「定番より季節限定商品が売れる」との助言により、日本酒は冬季醸造が一般的で現在も冬にしか酒造りをしない酒蔵が大半を占めるなか、四季醸造を開始した。特に夏場は、殺菌をしない生のフレッシュさと発酵過程での二酸化炭素がでてくるガス感が好まれる。限定商品開発のために設備を導入をした。

事業内容

日本酒の発酵過程でアルコールと二酸化炭素がでてくる。それをうまく充填することでガス感のあるピリピリした酒になる。以前はその感じが好まれなかったが、最近は若年層を中心にガス感がある方がトレンドとされている。ガス感のある商品にするために、酒造りを終えて充填（ビン詰）の工程で微炭酸ガスを事前注入するために微炭酸ガス充填機を導入した。この機械は微炭酸専用ではなく、微炭酸が不要な時は、炭酸ガスを注入せずに通常の充填ができるため、炭酸充填と通常充填の2ラインを置く必要がない。また、充填する前段階でタンク貯蔵した酒をポンプでカーボネーター装置に送り込み、カーボネーター装置で酒に二酸化炭素を溶解させるためのカーボネーター装置を導入した。

業務内容

清酒およびリキュール製造販売
戦国武将「加藤清正公」をゆかりとする、昔ながらの手造りの地酒を今に伝える山形の酒蔵。
安永7年(1778)、初代加藤専之助有恒が酒銘を「富士」と定め酒造業を開始。当時数多くあった蔵元の商標には「日本の名所」を標榜するものがあった。昭和30年代に「栄光」を冠し商標登録。



代表取締役 加藤 有慶

代表者:加藤 有慶
設立年:昭和39年10月 創業:安永7年(1778年)
資本金:4,000万円
従業員:14名

住所:山形県鶴岡市大山三丁目32-48
電話:0235-33-3200 FAX:0235-33-0477
URL:<http://www.e-sakenom.com>
e-mail:info@e-sakenom.com

微炭酸ガスのピリピリフレッシュな味わい、毎月新商品「四季醸造」 「栄光富士」の文字は左右対称、伝統と挑戦で裏表のない酒造り



カーボネーター装置を導入



2018年8月の季節限定商品

事業の成果

東京の主要取引先からのヒントで始まった季節限定商品の開発を行い、毎月違う味、ラベルで酒を製造販売するに至った。導入した微炭酸ガス充填機は、同じラインで通常充填と微炭酸ガス充填の変更が可能のため、夏場はフレッシュな微炭酸生酒と炭酸なし定番商品に使用。充填機は年間を通じて稼働率が高く、高品質の商品の提供が出来るようになった。また、従来の充填ラインは距離が長かったため、6名が作業に従事しなければならなかったが、導入した充填機は非常にコンパクトで作業は3名で可能になった。以前の充填機は量に微妙な差が出ることもあり、かなりのロスもあったが、現在は設定通りの量でロスがゼロになった。以上のことから品質、生産性が上がり、売上増となった。

今後の展望

本事業による設備導入で微炭酸の開発商品も定番商品も年間を通して需要が伸びており、生産が追いつかない状況にまでなりつつある。そのため、さらに生産性を高め、製造量を増やすために新たに製造棟の建築を計画している。

販路においては、東京を中心に、大阪、北海道、仙台などの大都市圏に拡大している。味の評価も高く、全国新酒鑑評会、東北清酒鑑評会、美酒名酒きき酒会など、さまざまな会で賞を受賞している。また、海外輸出については、約10年前にアメリカへの飛び込み営業時に会ったインポーターとの取引が順調に推移しており、新たに大手の販売先が見えつつある。さらに、韓国、シンガポール、イギリス、香港、中国、タイへと順調に広まっている。